

復命書

2010年4月20日

新政会 代表
望月 厚司 様

議員名 佐藤成子

下記のとおり、政務調査費による視察を実施したので、ご報告します。

| | | |
|---------|---|--------------------------------------|
| 1 日 時 | 2010年4月19日（月）午後2時から4時 | |
| 2 視 察 先 | (1) 都 市 名 視 察 先 施 設 等 | 熊本市 医療法人 聖粒会 慈恵病院 |
| | (2) 対 応 者 | 野口博通 事務部長 田尻由美子 看護部長 山寄素子 総務課長 |
| 3 目 的 | <p>こうのとりの揺りかご・赤ちゃんポストの設立時の状況や当時の状況・経過状況・賛否論・成果・課題などの話を伺い、現状を視察する。どこでもできることなのか？など我が市の養護施設などと比較して、何か検討できることがあるのか課題を探る。</p> | |
| 4 内 容 | <p>(調査事項・調査結果を具体的に)</p> <p>まず、山寄課長の案内で、施設の外から、その施設の状況を視察。一般の病院の正面玄関とは別の入り口から入れて、→に沿って進めば、“こうのとりのゆりかご”の前に、辿りつけるようになっていいる。まずは、悩まないで、相談して！のコメントが目飛び込んでくる。ポストのドアを開ける前に、ここに赤ちゃんを置いて行く前に、親の揺れる心を受け止める優しさが感じられる。45cm×65cm大扉があり、内部に36度に設定された保育器が設置されているとの説明。新生児が入れられると、アラームが鳴り、医療従事者が駆け付ける。監視カメラが設置されているが、親の匿名性を守るため、子のみしか映らないという。生まれて2週間以内の子供に限られている。新生児への命名は熊本市長が行う。扉を閉めると、新生児の連れ去りを防ぐため、自動ロックで、入れた側からは開けられなくなる。その保育器には、お母さんお父さんへの手紙が置かれている。いつでも連絡くださいと</p> | |

書かれているとのことだ。確実にこの扉？から小さな命が救いを求めたのだと思うとせつない気がした。雨が降っていたこともあり、物悲しいというか、なんか寂しいものが伝わってきた。

中に案内いただき、(もちろん直接それを見ることは出来ない)野口部長・田尻部長から話を伺った。

設備の目的は、望まない赤ちゃんを殺害と中絶から守ること。新生児は外界に対する適応力が弱く、いわゆる“捨て子”として何らかの施設に放置されると低体温症・熱中症などの危険性があるので、それらの危険から守るために設置された。設置に際し、“捨て子”を容認するのかとの議論にも発展するシステムではあるが、現状そのような赤ちゃんがいる限り、早急に安全に保護されるべきだの議論もあり、悩ましいところだとの説明。ドイツでは、2005年現在で、80か所を超え、ハンブルグでは、5年で、22人の命が救われたという。ここ慈恵病院では、2006年12月設置申請し、翌年5月10日から運用開始。預けられたこどもは、健康状態をチェックして、児童相談所が6日間程度で熊本県内の乳児院に移す。開設当時の幸山市長は、年1回件数のみ公表すると市の方針を説明。その後、利用状況や課題を検証する熊本県の会議では、親が判明したケースにおいて子どもを預けた理由は、“戸籍に入れたくない”“生活困窮”“不倫”“世間体が悪い”“未婚”の結果だったそう。子どもに障害児や新生児以外の幼児なども複数いたとのこと。親が福祉・教育関係者がいたことなどがかんがみ、親が匿名で預ける仕組みは倫理観の低下につながると指摘、匿名で受け入れないように努力することが必要と見解を示したという。一方で、子どもの遺棄防止に一定の効果があることも認め、国に対して、県境を越えた母子支援が必要と提言したとのことだ。2009年9月末までに預けられた子供の数は、51人。24時間携帯を離せない田尻部長。信仰精神があればこそ続けられる仕事なのだと頭が下がりました。ここを訪れるのは母親。相手は何とも思わないのか、男性は何をしているのか、その無責任の指摘はまったく同感。傷つくのはいつも女性、いや小さな命。議論するよりも命の大切さをいかに教えられるかなのではないか。法的問題は、今のところ目をつぶっている。刑法の保護責任者遺棄罪・児童虐待防止違反・児童福祉法違反・公序良俗違反。現実を受け止める現場の闘いは続く。

5

成果・市政
への反映等

ニュースで聞くのと、実際にまのあたりにするのとでは、その感覚が多いに違う。初めに見せていただいたビデオで、蓮田晶一院長は、「捨てられ、失われる命を救いたい。世の中にせつかく生まれてきた命を幸せに育みたい」と涙で訴えていた。責任持てない人間は親になる資格はないと改めて確認した。静岡においても、乳児院や養護施設で育たなければならない子ども達がいることに思いを馳せた。命の教育の大切ももちろん必要。望まれないでこの世に生まれてくる子供はいてはいけない。静岡市において、特別養子縁組はどの程度だろうか？里親制度はどうだろうか？もう少しPRが必要なのではないだろうか。どんな赤ちゃんにも、生きる権利がある。赤ちゃんが捨てられたり、幼児虐待事件が増加している。最後の最後の手段として、悲しいけど、この様な手段で救うことも必要なのではないかと実感した。熊本に全国から問い合わせがあると言います。「たった1民間がやっていることなのに、救いになっているんでしょうかね～」と2人の部長さん。私には、公的なセーフティーネットのないことへの警鐘にも聞こえました。「赤ちゃんを預ける前に、相談していただくというのが大前提です。相談していただくことが、本人と赤やんの幸せにつながりっていきます。命は尊いものです。この赤ちゃんの尊い命だけは救いたい。その一心で、施設の設置を決めました。メディアでは、赤ちゃんポストと言っていますが、こうのとりが運んでくれた大切な命・の気持ちをこめて、こうのとりのゆりかごと名付けました」は、重い言葉でした。